

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700091		
法人名	株式会社めいと我孫子布佐		
事業所名	めいとグループホームこほく		
所在地	千葉県我孫子市中峠2964-1		
自己評価作成日	令和 5年 11月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和5年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご自宅などでの自立した生活が困難になってしまったご利用者様に対して、家庭的な雰囲気の中で日常生活や季節行事、アクティビティ等を行いながら楽しく安心して生活が送れるように支援をしている。また、施設での生活で何らかの役割や日課を持ち、毎日程よい運動を続けることで身体的、精神的に穏やかに過ごしていただいています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは平屋で広いデイルームを中心に東館と西館の2つのユニットに分かれており、廊下や室内は広く清潔に保たれている。午前中は両館の入浴後、利用者がデイルームに集い、行事やレクリエーションに参加して過ごし、午後は自分のユニットでそれぞれ過ごしている。2つのユニット(両館)の利用者が一緒に過ごすこともあることから、職員も個別担当制でなく、誰でもが利用者全員の介護に関われるようになっている。ホームの運営はベテランの管理者が法人の強力なバックアップを受け、先頭に立って「家庭的な雰囲気の中で楽しく安心して生活が送れる」よう職員と一緒に日々実践に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 株式会社めいと我孫子布佐	心得(五訓)を施設内に掲示している。 毎日申し送りの後に職員全員で、唱和を行うこと で理念を共有し実践につなげている。	6つ理念と心得(五訓)を玄関に掲げている。 毎日申し送りの後に職員全員で五訓の唱和を 行っている。職員は五訓によりサービス意識を 徹底して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	めいとグループホームこほく 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業 所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していないが、毎週水曜日にカス ミの移動スーパーが施設の駐車場に来ているの で、毎週、利用者さまと近隣の方との触れ合い はある。	市役所と連携しているカスミの移動スーパーが 施設の駐車場に毎週水曜日來ているので、利 用者さまと近隣の方との触れ合いができてい る。また「こども110番の家」として地域子供の こどもの支援も行っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理 解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦の影響により、福祉祭りや、ふれあいサ ロンなどに参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への 取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの 意見をサービス向上に活かしている	我孫子市高齢者支援課、なんでも相談室、民生 委員などに参加を促し、2カ月に1度実施し、意見 交換を行っている。	我孫子市高齢者支援課、湖北・湖北台なんでも 相談室、民生委員に参加をお願いして、運営推 進会議を2カ月に1回開催し、報告や意見交換 を行いながらサービスの向上に活かしている	運営推進会議の構成メンバーが全員集まらない こともあるので、当日欠席したメンバーに会議の 報告をすると共に、ご意見をいただくと、さらに充 実した会議なると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情 やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関 係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議に参加していただ いている。施設の状況や取り組みについて報告 し、意見をいただいている。	我孫子市高齢者支援課とは運営推進会議の参 加により情報の交換や意見をいただいている。 利用者に生活保護受給者もいることから社会福 祉課とも連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の 対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施 錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などを行うことで拘束をしないケアに取 り組んでいる。安全面を考え正面玄関、西側玄 関は常に施錠している。	身体拘束については2か月に1回夕方から法人 の作成した研修資料に基づき拘束しないケアの 研修に取り組んでいる。正面玄関及び西側玄関 は常に施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機 会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごさ れることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回程度、施設内研修を行い虐待理解を深 めることが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が、研修に参加することにより、制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、ご家族様にしっかりと契約書などを見てもらいながら、説明を行っている。重要事項説明書が変更になった際には、再度説明を行っている。不安や疑問点があるときは、いつでも質問を受け付けその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時もしくはLINEなどで家族の要望や意見などの聴き取りを行っている。聴き取り内容を職員や介護支援専門員と相談しながら意見や要望を反映できるように努めている。	家族の1/3程度は面会によく見えるので、その時に要望や意見を管理者やケアマネが聴いている。LINEを利用して写真や情報を家族に発信すると共に要望や意見も頂き、運営に反映している。	訪問の少ない家族が多く、アンケートへの回答も少なかった。コロナの5類移行などの状況を踏まえて、家族とのコミュニケーションの取り方につき再検討願いたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員会議を行う。職員同士の意見、知恵などを交換し、運営に反映できるように努めている。	管理者は運営に関する職員の意見や提案を業務時間や月1回の職員会議で話し合い、把握している。毎年個別で面談を行い職員の意見を聴く機会を設けており、これらの意見を運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与や技能手当があり、労働時間については各職員と話し合うことでそれぞれの働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の施設内研修などで職員の苦手としている実技などを指導し、ケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦の影響から中々交流の機会がないが月に1度の本社での全体会議などで他の施設長などと、運営状況や問題点などの話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や施設見学の際に、ご本人や家族から現在困っていることや心配なことについて確認し、出来る限り安心感を持って入居していただけるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際や契約の時などに、ご家族としっかりと話し合いを行っている。不安や疑問に思うことがあれば、その都度話し合いを行い、信頼関係を作れるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援について、話し合いの中で把握し、必要な支援を提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれのできることを、やりたいことを日々の生活の中で見極め、洗濯星や洗濯物たたみ、机拭きや食器洗い等、ご本人に生き甲斐を持っていただけるように支援している。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に外出や外食、病院の受診、自宅での外泊などを行っていただくことで、ご家族と協力してご本人を支えていけるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦の影響、ご友人も高齢化に伴い交流があまりできていない。	利用者のご家族との外出や外食、さらには、正月の外泊も認めるなど、本人やご家族の馴染みの関係の継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の性格などを全職員が把握し、食事の席やレクレーション時の席を考慮して会話やコミュニケーションが取れるよう配慮している。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後でも何かあれが連絡、相談が出来るよう支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望に添えるよう支援している。	日々の生活の中から、利用者のしたい事等を聴いたり、レクリエーション活動時の表情や仕草からも利用者の思いを汲み取っている。家族とはLINEを利用し、家族の思いを聴いており、内容は、全職員と共有して、支援に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく今まで自宅で使用していたものなどをお持ちいただき少しでも自宅と同じように生活が出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や心身状態については個人記録に残し、申し送りを通して現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族からの意向と共に、職員からの意見やご本人の日々の様子をもとに介護計画を作成している。	記録や職員の意見を聴き、定期的に全職員でモニタリングを行っている。課題が生じれば利用者・家族・かかりつけ医の意見を参考に、その都度、介護計画の見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録に記入する事により、職員間で情報を共有できるように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のその時その時の状態に応じて、必要なサービスを提供できるように努めている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な機関と連携を図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年の春より会社指定の医療機関に変更になっている。(ご家族様に説明しご納得を得ている)整形・眼科などは基本家族対応で医療機関に受診していただいている。	入居時に利用者や家族の同意を得て、「かかりつけ医」を会社指定の『24時間対応型の医療機関』に変更してもらった。かかりつけ医や歯科医、薬剤師の定期的な訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化について、報告、連絡、相談を行い適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には時々面会に出向き、ご本人の様子などを看護師に確認し情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当施設で対応できることと、出来ないことを説明し、医療行為が発生した際には医療行為が対応できる関連施設へのご紹介などをお話ししている。	入居時に、利用者や家族と終末期の対応を話し合っている。重度化した時は家族等と話し合い、医療行為が必要であれば、ホームで見取りを行っている。全職員が見取り研修を受けて対応し、見取り後は職員の精神面でのフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命講習(AEDの使用など)を受講している。応急処置や初期対応の訓練については内部研修で年1度は取り上げ実践力を身に付けられるように努めているが十分だとは言い切れない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練や防火訓練を実施している。緊急時に対応できるように努めているが、地域と協力体制についてはほとんど気づけていない。	火災訓練は年2回実施した。消防署員立会いで消火訓練を実施し、夜間想定訓練も全職員で行っている。施設周辺は、高齢者が多い地域と新興住宅地域が混じり地域住民との交流は難しく、地域との避難訓練は行われていない。	

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応について、尊厳を傷つけないよう指導している。(年に1度の内部研修でも指導している)	利用者の眼を見てゆっく話し掛けたり、話を聞くよう全職員で注意しあっている。入浴やトイレへのさり気ない誘導等、心理的な配慮を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様におやつや飲み物を選んでもらったりし、自己決定をしていただき、支援できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操の時間など決まっているところはあるが、そのほかはご本人の意思で過ごせるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度の訪問理美容があり、ご本人の希望通り利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さんと一緒に飯がっていただき、一部の利用者様ですが、食器洗いや片付けを手伝っていただいている。	市内隣接地区にある法人の別施設で献立・調理した惣菜を利用している。ホームでは、ご飯やみそ汁を作り、刻み食やミキサー食に調整している。月1回『料理クラブ』を開催し、利用者と職員と一緒に立てた献立で調理し、食べる事を楽しみにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を明確に記録に残し、食事形態にも工夫している。水分摂取量が少ない方にはこまめに補給を促している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の自立を促しながら必要に応じて一部介助もしくは全介助で支援している。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで行えるように自立支援を促しながら、必要なところは介助にて支援している。	紙パンツを着用するが、『トイレ排泄』が基本。女性・車いす専用のトイレがあり、個々の排泄パターンでトイレ誘導している。夜間は、おむつ使用に変えたり、転倒防止のために、赤外線センサーを活用し、トイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携しながら、必要時に内服薬の処方などしていただき対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日、時間などは決まってしまうが、ご本人の都合など考慮し、状態や状況に合わせてご利用していただいている。	週2回午前中の中の入浴が基本であるが、季節や個人の体調変化等に合わせ、時間を変えたり、シャワー浴の場合もある。入浴を嫌がる利用者の場合は、時間を変えるなどして支援している。入浴時には全身の健康状態を観察している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事などの時間は決まっているが、そのほかの時間についてはご利用者様のペースで生活できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で管理させていただいており毎食後ケースに分け配薬している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や食器洗いなど出来る方には無理なく役割を持たせ支援している。月に1度料理クラブを開催し利用者様と職員とで協力し、食事を作っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人で外出できる利用者様が現在はいらっしゃらないので、時間が取れるときには職員の同行の元、施設周辺を散歩したり、ご家族様との外出を促している。	職員の車いす・歩行介助により、近くの公園まで散歩に出かけ、出会う地域の方と挨拶を交わしている。毎日法人別施設を食事を受取りに行くときは、利用者を同乗させ、ドライブ気分を楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が認知症の為紛失、物盗られ妄想などから、ご本人でお金を所持することを避けている。移動スーパーなどで買い物を利用する利用者さまには施設でお金を立て替えている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご希望があったときやご家族様からご連絡があったときには、電話でのやり取りを行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有リビングでは、食事以外にテレビやソファなどを設置しており、ご自由に過ごしていただけるような環境作りを行っている。	家族の同意を得て、廊下の壁に利用者の写真を掲示し、利用者や家族に喜ばれている。食後は各ユニットの庭の見える食堂兼居間で寛ぐが、2つのユニットが集うダイニングは、開放的でレクレーションを楽しむ憩いの場となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、テレビや映画鑑賞ができる環境を整えている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時やその後も、使い慣れたものを持参していただき自宅に近い環境を整え安心して過ごしていただけるように努めている。	入居時に、利用者の馴染みの品々を持参してもらい居心地良く過ごせるよう配慮している。一緒に居室掃除のできる利用者が少なくなり、職員が掃除や片付けをしている。感染症予防のため、1日に2回、居室消毒を行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限りご自分で出来ることが行えるよう自立を促し支援している。また手すりなどの設置をして安全にも配慮している。			